

平成27年度学校評価実施計画

学校名 聾学校

前年度評価結果の概要	重点目標(1)については、指標としていた幼児児童生徒の能力を向上させることができたことと答えた教員の割合は95%であった。ただし日本語能力の向上については十分指導できていないことからさらなる言語活動の充実が望まれる。また、同じく重点目標(1)に掲げた指標、個別の教育支援計画で保護者の思いが受け止められたと答えた保護者は89%。重点目標(2)については、乳幼児相談来訪者アンケートで子育ての役に立ったと答えた相談者100%。重点目標(3)については、卒業生の進学・就職率100%。とおおむね指標を達成できた。
------------	--

教育目標	中期目標	重点目標
聴覚に障がいのある幼児児童生徒一人一人の実態に即し、各学部間の連携による一貫した教育を行うことにより、障がいによる困難を主体的に改善・克服し、社会参加や自立するために必要な知識・技能・態度・習慣を養う。	(1) 幼児児童生徒が主体的な活動を行うために必要な基礎的・基本的な知識・技能・態度及び習慣を身に付けさせる。 (2) 一貫教育確立のため各学部間や寄宿舎との連携システムを構築する。 (3) すべての教員が教育相談活動に必要な知識・技能を身に付ける。	言語活動を充実させ、基本的な日本語（活用）力を高める。

PL:プロジェクトリーダー、SL:サブリーダー

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL
言語活動を充実させ、基本的な日本語（活用）力を高める。	すべての幼児の認識語彙数が次のようになる 3歳児：500語以上 4歳児：1300語以上 5歳児：1800語以上	行事で扱ったことばを活動後も日常的に使って、やりとりをさせる。 連絡シートを活用する。 学期毎に習得したことばの確認を行う。	教員が年齢毎に語彙表を作成する。 教員が行事ごとに扱うことばを明示する。 行事で扱うことばが連絡シートにより、保護者に周知される。	PL：幼稚部主事
	すべての児童が目標読書量を達成し、読解プリントの結果が年間で10%向上する。	読書量について学期毎の目標を児童毎に定め、取り組ませる。 2週間に一度の割合で読書の時間を設け、読書に取り組ませる。	児童が、自己の状況に応じ、低学年で100冊以上、高学年で5600ページ以上の目標設定ができる。 教員が年間で15回以上読書の時間を設ける。	PL：小学部主事
	すべての生徒が適切な理由を付して説明したり、資料を活用して説明することができるようになる。 「話し合いまとめプリント」を正しく書けるようになる。	毎月1回以上話し合い活動を行う。 話し合いのルールを毎回確認する。 話し合いの過程や結果を文に書き表し、互いに確認する。	教員が10回以上話し合い活動を実施する。 話し合いのルールを全生徒が言えるようになる。 生徒が話し合い活動の授業ごとの「話し合いまとめプリント」を書けるようになる。	PL：中学部主事
	すべての生徒が、5W1Hを押さえ、必要事項が適確に伝わるメモを取ることができるようになる。	メモの取り方を指導し、ホームルーム活動、現場実習、校外学習及び修学旅行においてメモを取らせる。	すべての生徒がメモ作成の要領を身につける。 すべての生徒が、すべての活動後にメモの写しを提出できる。	PL：高等部主事